

## 経営情報学プログラム プログラム専門科目

英語 対応	科目名（単位）	授業の概要
	経営とデータサイエンス（2単位）	「経営とデータサイエンス」は、経営学とデータサイエンスの統合的視点を学ぶことを目的とした授業である。本授業では、会計、マーケティング、組織論、人的資源管理といった経営学の主要領域と金融論、経済学といった関連領域において、データサイエンスがどのように応用されているかを解説する。それぞれのテーマごとに理論的背景と実務での活用事例を取り上げ、経営課題の解決におけるデータサイエンスの役割を理解する。また討議や発表を通じて、経営とデータサイエンスを組み合わせた独自の分析視点を深める。
	人材育成とキャリア開発（1単位）	本授業では、人材育成とキャリア開発に関する理論を体系的に学ぶ。具体的には、日本の人材育成システムの特徴を起点に、採用、組織社会化、職場学習、実践共同体、越境学習、キャリア理論、テクノロジーなどを取り上げ、現代企業における人材育成とキャリア開発の課題を考察する。この授業では、従来の一つの組織内における従業員の学習やキャリア開発に加え、個人が組織の境界を超えて行う学習や社会関係資本の獲得、キャリア移行にも焦点を当てる特徴とする。また、討議や発表を通じて得た知見を多角的に整理・分析し、それらを自身の研究領域に理論的・実践的に結び付ける能力を養うことを目指す。
	デジタルマーケティング（1単位）	本授業の前半では、デジタル技術を活用したマーケティングに関する概念や理論的思考を学ぶ。具体的には、動画・SNSなどを活用した情報発信手法や、各種データの収集・分析方法について考察する。本講義の後半では前半の学習の応用として、地域の観光促進に資するデジタルマーケティング施策案を作成・発表する。これにより理論と実践を結び付ける能力を養うことを目指す。

英語 対応	科目名（単位）	授業の概要
	マネジメントアカウンティング・ファイナンス論（1単位）	<p>ビジネスアカウンティングおよびファイナンスについて、最高財務責任者(CFO)のような立場から包括的に理解するためには、その基盤として、財務会計・管理会計・ファイナンスの3つの領域を体系的に理解できる能力が必要である。</p> <p>具体的には、①会計情報を通じた企業外部の利害関係者との相互作用という財務会計の観点から、現行の会計基準を本質的に理解したうえでの「考察力」、②企業内部におけるマネジメントコントロールの観点から、管理会計手法の応用的な「創造力」、③ファイナンスの観点から、財務マネジメントデータの活用および当該データに係る資本市場における評価の仕組み等についての「洞察力」が必要となる。</p> <p>本講義ではこれらの3つの領域について、重要論点に焦点を絞ったうえで、本質的かつ応用的な総合力を修得するため、学術的かつ実務的なフロンティアを意識した融合的な講義を行う。</p> <p>まず財務会計領域では、概念的アプローチにより、企業会計制度の根底にある会計学の基礎概念や会計理論などについて、IFRS概念フレームワーク、現行の会計基準の形成に至るまでの会計学説の変遷（取得原価主義会計から時価主義会計への会計学説の変遷、公正価値学説等）を検討する。次に管理会計領域では、実証的アプローチにより、実務的かつ応用的な事例研究として、コスト・マネジメントの実際、マルチプルキャピタル・マネジメントの実際（統合報告の活用による管理会計の高度化等）を検討する。最後にファイナンス領域では、実務的アプローチにより、会計情報と資本市場との相互作用に焦点をあて、応用的な財務分析手法、株価形成や企業価値評価等を検討する。</p>
	競争戦略論（1単位）	<p>競争戦略はさまざまな領域で関心を持たれる概念であり、多様な規模や形態（地域、国家、国内地域、機関、個人など）における行動を分析する手法の体系と考えられる。競争戦略は過度に一般化できるものではなく、さまざまな要因によって個別具体的に最適な場合が異なる。本講義では、代表的な古典的モデルの枠組みとその決定要因について学修する。さらに、これらを踏まえて、主体の行動を俯瞰し、戦略の最適化の観点から分析・立案を行う手法について学修する。</p>

英語 対応	科目名（単位）	授業の概要
	金融仲介と制度（1 単位）	<p>金融は経済活動において必須の領域である。その活動は基本的に民間営利企業によって担われるが、公共的な性格を持つことから非常に厳しい規制・監督が行われることが大きな特徴である。したがってまた規制の在り様は金融機関の経営にも大きな影響を与えることになる。</p> <p>本講義は 1980 年代以降のアメリカ経済や金融を主な対象として (1) 金融に関わる制度の概要と変遷、(2) 経済活動と金融との関係、(3) 金融機関経営等について講義する。(3) については監督機関である FRB や FDIC 等によって集約・公表されているデータを用い、データの特性、利用法等も含めて扱う。これらの学習を通じて持続可能な豊かな地域社会の創生を支えるための、情経営情報学の知識や分析能力を涵養する。</p>
	組織システム論（1 単位）	<p>経営組織そのものの原理原則について展開する。組織は何のために存在し、どのような原理で存在するかについて多角的に考察をする。具体的には、以下の視点を中心として展開する。1) 組織持続性のメカニズム、2) 個人と組織との関係、3) 組織における内と外、4) 全体と部分である。以上により、現代社会のメインプレーヤーである組織について理解を深める。</p>
	計量経済分析（1 単位）	<p>計量経済分析は、経済・社会統計や調査などから得られるデータを用いて、経済の動向やそこで活動する企業・消費者の実態を明らかにするものであり、経営学や経済学において理論と現実をつなぐ役割を担っている。この授業では、経営学や経済学、関連する社会科学分野における実証分析で用いられる計量経済分析の手法を学び、データと計量ソフトウェアを用いて実際に推計を行うことにより、修士論文を作成する際に必要となる実証分析を行う力を養う。</p>
○	地域起業論（1 単位）	<p>地域社会が有する資源の本質的な価値を理解する洞察力と地域が有するポテンシャルを有効に発揮する考察力について講義と議論を通して習熟し、地域に新たな富を生み出す創造力を修得することを目指す。「地域資源の活用」「地域社会の活性化」「地域イノベーション」に関わる知識に加え、実例を題材とする議論を通して、地域資源を基にした地域創生の事案が持つ本質的な意義と価値を理解し、自ら考える力を養成することを促す。</p>

英語 対応	科目名（単位）	授業の概要
	経営情報学特別演習（4単位）	<p>指導教員とのディスカッションを通じた、経営情報学分野における修士論文作成ための分析手法の確立と、適切な資料・データ収集方針の確定を目的とする演習科目。</p> <p>研究計画の作成とその実施、修正必要箇所の確認と研究方針の更新を繰り返し、1年次後期の間に研究計画を確定させる。</p> <p>研究に必要な分析手法や資料・データの探索方法を会得し、研究計画を立案・実施する能力を養う。この成果を確認するために、主指導教員の指示により「研究計画発表会（中間報告会）」を実施する。なお、境界領域・学際的領域の観点から、研究対象技術の異分野への応用に関するディスカッション等も含む。</p>
	経営情報学特別研究（6単位）	<p>「経営情報学特別研究」は、修士論文研究の遂行過程を総合的に評価して単位を認定するものである。経営情報学プログラムを専攻する学生の研究テーマは、経営組織、マーケティング、人材育成、会計、金融制度、地域経済などと広範囲に渡るため、授業内容の詳細は研究テーマに合わせて個別に設定される。修士論文の作成にあたっては、まず研究テーマを決定し、研究内容を十分に把握した上で、到達目標に向けた種々の内容を、研究の進行状況に応じて指導教員の適切な指導のもとに実施するとともに、研究者として必要な倫理観を養成する。なお、境界領域・学際的領域の観点から、研究対象技術の異分野への応用に関するディスカッション等も含む。成果は隨時とりまとめ、主としてゼミナール形式で指導教員に報告する。指導教員が指定する2年次の適切な時期には、プログラム担当教員の参加のもと、修士論文研究の達成状況の報告を行う。</p>